

1. 事業報告

仁愛女子高校電顕実習プログラムを行いました。

2021年7月8日(木)、19(月)の計2日間、『仁愛女子高等学校の生徒に事前講座と走査電子顕微鏡などを用いた実習プログラム』を行いました。本プログラムは、理系科目に高い関心を持つ地域の女子高校生をふくむ産学官共同拠点およびオープン R&D ファシリティに招いて、先端科学技術を体験してもらう取り組みです。

1日目は、西村文宏助教(産学官連携本部)から大学生活や大学と高校の違いなどについて、入江聡准教授(材料開発工学専攻)から電子顕微鏡の仕組みについての講義を実施し、プログラムの趣旨や内容の理解を図りました。

2日目は、1チーム3名を6チーム構成し、3つのプログラムを順に体験してもらいました。走査電子顕微鏡体験のプログラム(計3時間程)では、生徒それぞれが事前に用意した見たい物を走査電子顕微鏡にセットし観察しました。質量分析装置のプログラム(計90分程)では、DART-TOF-MSで



(米沢本部長による挨拶の様子)



(分析機器の説明する様子)

食用油や出汁などの分析を行い、普段口にする物が質量分析計ではどのように見えるのかを体験してもらいました。レーザー加工のプログラム(計90分程)では、レーザー加工機を使ってアクリル板をいろいろな図柄に切り出したり彫刻したりし、キーホルダー等を作りました。参加した生徒からは「肉眼で見える物には限界がある事を知った(電顕)」「目の前で加工が進んでいくのが見えて楽しい(レーザー加工)」等の感想がありました。

2. 事業報告

第18回福井発! ビジネスプランコンテスト2021のビジネスプランの募集が開始されました。

第18回『福井発! ビジネスプランコンテスト2021のビジネスプラン募集』が一般の部(年齢・職業不問、学生の応募も可)、学生の部(中学生以上大学院生まで)で募集が開始されました。

本コンテストは福井県内の大学や地域企業などが連携し、コンテストを通じて新事業創出や活動を促進することを目的としており、主催の実施委員会に本学も参画しております。

応募内容は、福井の地域活性化につながるものであり、未発表のものに限りませんが、ビジネス分野やテーマは自由です。

応募は、応募シートに基本事項(氏名、所属など)、タイトル、プラン内容(学生の部は概要)を記載し、FAX、メール、郵送にて事務局宛で、2021年10月31日(日)(郵送の方は当日消印有効)までの提出になります。

スケジュールは、ビジネスプラン募集開始→随時プラン相談・事業化相談受付→そしてビジネスプラン作成講座・交流会(計4回:7月31日、8月21日、9月11日、10月2日、すべて土曜日、WEB開催に変更する場合あり)→ビジネスプラン応募締切10月31日(日)→選考会の結果通知日2021年12月1日(水)、メールまたは郵送にて個別に通知→プランおよびプレゼンテーションのブ

ラッシュアップサポート→最終選考 2022年1月29日（土）14時～ハピリンホール（WEB開催の可能性有）、事業化に向けたフォロー・サポート→ビジネスプランの事業化という流れで進められます。

なお本コンテストの募集要項の詳細やお問い合わせは、「福井発！ビジネスプランコンテスト実行委員会事務局」にご連絡、またはインターネットで「福井発BPC」で検索して詳細が確認できます。

3. 活動報告

高志高校生に社会調査の授業や仮説発表の指導を行いました。

高大連携教育活動の一環として、本機構教員が高志高校生に社会調査の授業や仮説発表の指導を行いました。

本活動は、高志高等学校2年生が1年間を通して仮説設定から調査、検証およびその発表まで行う取り組みです。

まず2021年5月25日（火）および6月1日（火）には、（地域連携推進本部）竹本拓治教授が社会調査法について授業を行いました。

続いて2021年7月6日（火）および7月13日（火）の計2日間で、18つのグループが「SDGsの達成と環太平洋諸国の課題解決」をテーマに仮説発表を行いました。

一日目は竹本教授、二日目は（地域連携推進本部）川上祥代特命助教が高志高校生のアイデアに対して質疑とアドバイスを行いました。

発表では、福井県内の企業と連携を想定し、主に「プラごみ」、「教育」、「食」に対する課題解決を目指した仮説がみられました。

今後は仮説検証に向けて、事前調査、フィールド調査などを行う予定です。

4. 活動報告

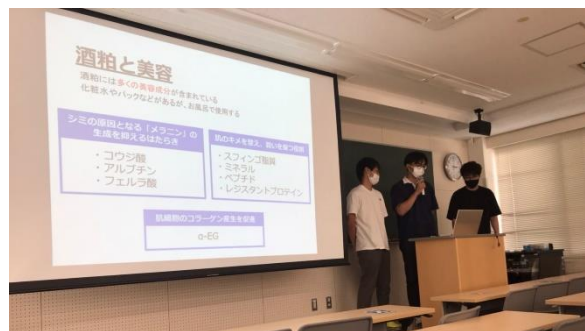
起業化経営論の実践活動がはじまります。

今年度の（大学院工学研究科 前期開講科目）起業化経営論の実践活動は、日本酒製造から生まれる「酒粕」をテーマに、地域企業と連携しモノ、コトなどの新商品、サービスにつなげます。

本活動では、工学系学生が起業マインド、マネ

ジメントスキルなどの獲得を目的としています。

実践活動の試作品づくりでは、7月30日（金）の最終選考にてアイデアチャンピオンとなった「クレヨン」と「sake 珈琲」を提案した2チームが吉田酒造（有）吉田由香里社長と本学の竹本拓治教授、（繊維先端工学）浅井華子助教、川上祥代特命助教からの指導を受けて取り組みます。



（最終選考の様子）

5. 活動報告

クリアランス金属再利用によるベンチを産学官連携本部に展示しました。

日本原子力発電株式会社の協力依頼を受け、原子力発電所解体撤去に伴い発生した『クリアランス制度対象金属再利用のベンチ』を産学官連携本部2階に展示しています。放射性物質の放射能濃度が極めて低く人の健康への影響がほとんどない金属などを、国の許可・確認を得て普通の廃棄物と同様に再利用や処分する、クリアランス制度への理解や原子力に関する安全教育に活かされます。



（クリアランス金属再利用によるベンチの様子）

（2021. 7. 30 付）